創刊のことば

◇　わたしたちは，雑誌『農耕の技術』を発刊します。この際，多くの方々に，わたしどもの意図をご理解いただきたいと思います。

◇　わたしたちは，「農耕」ということばの意味を，ここで，あまり厳密に規定する用意がありません。しかし，作物の栽培や家畜の飼養についての歴史性や地域性を明らかにし，なによりも，人間の営みとしての農業を考えてみる過程で，いわば近代「農業」に対置する内容としての「農耕」ということばを重視したいと思います。雑誌『農耕の技術』は，この姿勢を大切にしながら，農耕における技術の問題を，学問的に追究するみちを進んでゆくつもりです。

◇　雑誌『農耕の技術』は，こうした立場に立つ，幅広い分野の研究に，ひとつの発表の場でありたいと思います。わたしたちは，ひとりひとりの研究者の，地についた，とらわれのない，独創性ゆたかな報告を期待するものです。

◇　わたしたちは，こうした地道な研究のつみかさねのなかから，農業における技術の正しい意味とあり方を，おたがいに考えてゆきたいと思います。また，そのことが可能でもあると思っています。

◇　こうした考えから，わたしたちは，ひろく農学の諸分野にかかわる方々の，積極的なご協力を，ぜひ，お願いしたいと思います。農業技術の正しい発展のために，技術のありようの原点にたちかえり，農業を正しく人間の営みとしてとらえかえすことが，今日ほど必要な時代はないと信じるからです。わたしたち発起人のすべても，こうした学問分野にかかわっているのですが，自省の気持をこめて，このことを痛感するものです。同学のみなさんに，こころからご参加を呼びかけたいと思います。

◇　それとともに，わたしたちは，農学以外の立場から「農耕」の諸問題に関心をもたれるあらゆる分野の方々に，かさねて，雑誌『農耕の技術』へのご

協力をお願いしたいと思います。人文科学や社会科学の分野のみなさんとも，「農耕」をめぐるおおくの問題を共有できるものと期待しています。ともすれば，閉塞されがちなせまい学問領域をとりはらって，雑誌『農耕の技術』が，このようなひとびとの邂逅と知的交流の場となりうることを，わたしたちは念願するものです。

◇　雑誌『農耕の技術』は，当面，年1回刊行されます。わたしたちのほとんどは，雑誌の発行などということを，まったく経験しておりません。編集や原稿の依頼などに，当分は苦労しなければならないという一同の気持のあらわれが，当面，年1回の刊行とする理由です。しかし，そうすれば，内容の充実した誌面ができるにちがいないという期待が，いっぽうには，ないわけでもありません。

◇　雑誌『農耕の技術』は，次号からは，あたらしい編集委員会のもとでつくられる予定ですが，ともあれ，創刊号をわたしたちの責任において，やや見切り発車のきらいもありましたが，発刊できることをよろこびとします。かさねて，おおくの方々の積極的なご参加とご協力をお願いします。

『農耕の技術』創刊発起人

栗原　浩・前田和美

氏原暉男・安江多輔

渡部忠世